

「 さ さ え 」

2019年4月発行 情報誌 第67号

発行 NPO福祉用具ネット事務局

住所: 福岡県田川市伊田 4395 (福岡県立大学内)

TEL/FAX: 0947-42-2286

E-mail npo-fukusiyogunet@sage.ocn.ne.jp

新 URL <http://npofukusiyogu.sakura.ne.jp>

情報誌「ささえ」は年4回(1月・4月・7月・10月)発行しています。

印刷 よしみ工産(株) 北九州市戸畑区天神1丁目13-5

福祉用具はあなたの自立をささえます。

あなたのささえがNPO福祉用具ネットを元気にします。

NPO福祉用具ネットは『抱え上げない介護技術』を推進します。写真のような介護はやめましょう。



洗髪シャワー



NPO福祉用具ネット開発品第1号

【製造元】

(株)福祉SDグループ

平成27年より、充電式も発売開始。

【発売元】キヨタ(株)

**これまで、NPO福祉用具ネットが関わった
主な開発協力品** (現在は製造中止となっています。)



アルファブラ
ソラ クッション

SORA



尿吸引ロボ「ヒューマニー」



特定非営利活動法人

NPO福祉用具ネット

「大切な芽を皆さんのやさしさに包まれながら育てていきたい…」

キネステティクス®

ベーシックコース&アドバンスコースを学んで

2019年1月26日(土)、27日(日)、2月9日(土)の3日間にわたって本講座が開催されました。毎回、9:00~17:30という長時間の講座でしたが皆さん、笑顔に満ち溢れた楽しく充実した3日間だったようです。受講者の皆さん講師の先生方、大変お疲れ様でした。

受講者数名に以下のような質問をしました。皆さんからのコメントをご紹介します。

1. 受講したコース
2. 今回のキネステティクス技術のコースを学んで、最も、心に残ったポイントはどんなことでしょうか？
3. 現場に戻り、仕事の中で何か役にたったこと、介助等で楽になったことがありますか？それは具体的にどんなことですか。
4. 現在行っている「抱え上げない介護」の技術を理解するのに役にたったことがありますか？

岩本幸子さん (理学療法士)

1. ベーシックコース
2. 言葉や視覚からの指示が伝わっていないように見える対象者の方でも、キネステティクス感覚から伝わっているかもしれない、伝え続けることが動きを引き出すことに繋がるかもしれない・・・なんだかワクワクします。
3. 相手を動かす、というよりも、一緒に動くことを意識するようにしたら、より動きが伝わり易くなったようです。自分の動きも、スパイラルを意識する事で、無理な緊張を減らせるようにしています。これが、健康な身体作りに繋がるというのは素晴らしいです。
4. 重さの移動、マスの動きをとりのマスに伝える、その方向など、より理解できました。スパイラルに動かすと楽に動ける感覚がより理解できました。

財前篤子さん (作業療法士)

1. アドバンスコース
2. 一番心に残ったのは、トレーナーの接触と誘導がとても自然に感じられたことです。理解を助けるために概念を用いると同時に、体験を重ね、考えすぎずに動くことが大切だということを学びました。
3. 役に立っていると思います。たとえば、“マス”と“スペース”の役割、“整える動き”と“運ぶ動き”の違いを意識することで、ギャジアップ座位での食事姿勢を整える時に、飲み込む動作を邪魔しないポジションニング(頸部)が可能になってきていると思います。
4. 役に立っていると思います。
 - ・重さを“マス”のひとつずつに移していく
 - ・“運ぶ動き”と“整える動き”の役割の違い
 - ・“歩く”と“飛ぶ”の違い等々
 - ・これらの概念を(体験を通して)学んだことが、「抱え上げない介護」技術を学び理解する手助けになっていると思います。

粕谷千鶴さん (看護師)

1. ベーシックコース
2. 感覚の大切さ
3. 一人で立ち上がれない方の立ち上がりの介助をするときに、背中をなで上げるだけで上手に立って下さる方が何人もいた。今までは介助者の両腕をつかんでもらって「うんしょ」という感じでしか立てないと思っていたのに・・・
4. 「重さを移す」という事が初めて体感できた気がした。



山内鈴代さん（看護師）

1. ベーシックコース
2. マスとスペースの考え方から、「重さをうけているマスの数で体位を考える」ことです。リクライニング車椅子の体位を「座位」と思っていたが本当は仰臥位でした。このことで、日頃のケアで、臥床を促すために、リクライニング車椅子に起こすということが、「寝かせている」と同じだとハッとしました。
3. ポジショニングの考えで、側臥位として背中に枕を入れているのは、臥位の状態であるとわかった。重さがどこにあるのか確認すること、確認は、見る方向で感じるところが違うので、触れて確認する重要性が理解できた。マスとスペースや骨と筋肉の考え方を取り入れ、拘縮している患者さんのポジショニングを考えています。
4. 身体の移動の仕方。重さを移す方向が理解できた。

塚原大和さん（理学療法士）

1. ベーシックコース
2. 人の身体の動きは、今まで自分なりに考えていたより何倍も奥深く、面白いものだった。
3. ①特に、一つの決まった答えがあるわけではなく、あらゆるツールを使って、いかようにも答えがだせることが面白かった。
②対象者の身体の動きについてより細部まで注目するようになった。
③起居動作などの動きのアドバイスのパターンが増えた。
④自分自身の、対象者に対する声かけや触れ方がより注意深くなり、より丁寧に行うようになった。
⑤対象者の身体の動きを誘導する際、いろんな方向を試すという考えが身につき、よりスムーズな誘導ができるようになった。
⑥介助時の自分自身の身体の使い方もより理解が深まり、介助がより楽しくなった。
4. ①身体の各部位の重さの流れの理解がしやすくなり、誘導しやすくなった。
②今まで自分自身が人に伝えるときに、型にはめて伝えようとしていたことに気づいた。視野が広がり、根拠立てしやすくなったことで、説明に自信がもてるようになった。

中尾三枝子さん（介護福祉士）

1. アドバンスコース
2. 活動や状況、動きの性質などを考える中でグループワークをする事により、一緒に考える事で自分では思いつかないような多様な発想があり、知識が広がったような気がした事。
また、ベーシックを受けて間違った解釈をしていた概念を修正する事ができ、自身の動きが楽になった事。
概念を理解する事は言葉で説明する事よりも身体が覚えて自然に動きを習得する事が大事だと言われた事。
3. ①自分自身の身体の使い方が変わった事。
体重のかけ方、姿勢の保ち方など『基本体位』を日常的に繰り返す事で体が軽くなって腰痛が軽減したように思う。
②実際にケアの際に児の動きを基本体位に合わせて一緒に動く事で両者に負荷の無い動作が取れるようになった事。
4. ①人間本来の機能の概念を理解する事で『抱え上げない介護』の技術に対する説明の道義付けに役だっていると思う。
②骨と筋肉を使って重さを移動させること。また自分自身の体重移動によって不良姿勢を作らない事。
③コミュニケーションの取り方、環境の作り方など常に相手と自身の動きの事を考えるようになった事。



ベーシックコース修了者の皆様



アドバンスコース修了者の皆様